

## 第2回加西市ふるさと創造会議検討委員会会議録

1. と き 平成24年12月10日(月) 午後3時00分～午後5時45分
2. と ころ 地域交流センター 集会室
3. 参加者 委員15名
4. 欠席者 委員3名
5. 事務局 加西市ふるさと創造課 3名
6. 議 事
  - (1) 加西市内の先進地域の事例紹介
  - (2) 「ふるさと創造会議」のあらましについて
  - (3) 「ふるさと創造会議」設置及び活動にかかる補助制度について
  - (4) 次回開催日程について
  - (5) その他

|     |   |
|-----|---|
| 委員長 | 先ほど加西市において、先進的に地域づくりに取り組まれている「宇仁郷まちづくり協議会」について、説明がありました。この件について、何か質問やご意見を伺いたいと思います。                         |
| 委員  | 今、説明していただいた組織構成などは、市が考えているふるさと創造会議と同じものなのか。このような取り組みを進めていくということか。   |
| 委員  | あくまで、一つの例。それぞれの地域によって、取り組み課題は変わってくると思っている。このとおりにしなければいけないということではない。   |
| 委員  | こういった取り組みをすれば、少子高齢化の対策になるということか。  |
| 委員  | 宇仁地区の場合、高齢者が定年後の自分の持っているスキルを使って社会参加していくという一つの例です。   |
| 委員  | 市の中心に位置する地域では、高齢者対策というよりも、旧の街並みを生かした取り組みとかと祭などを行なっていくことも一つの例と考えても良いのか。                                      |
| 委員  | そのとおり。地域が持っている伝統・文化・地理・習慣・人材を組み合わせていき、いままでの取り組みから、新たな人を取り込み、現存の組織を活性化させるのも一つの取り組みと思っている。新たな起業につながればとも思っている。 |
| 委員  | 朝市の売り上げは、発表された額を達成しているのですか。   |

委員 先ほどの発表の中での数字は目標。朝市だけでは、厳しいと思っている。加工品も必要かと。

委員 いままで活動を継続されてきたからこそ、課題点が見つかってきたと思う。市外の自治会とは、どんな機会での交流が始まったのか。

委員 仕組みづくりには、やはり専門家が重要となってくる。そのアドバイスをもらうことが必要。

委員 市外の自治会は、紹介してもらおうのか。

委員 県のまちづくり担当を介して、いろんな協議会に触れ合うことができ、たまたま考え方の波長が合ったので、交流を始めた。協議会の代表が女性の方で、非常にパワフルな人でした。その協議会は、子供達に自然豊かなところを経験させてやりたかったことで、交流が始まった。

委員長 県のアドバイザー事業を活用されたのですか。

委員 そのとおり。都市計画に詳しい方を派遣していただいて、家を建てやすくするにはどうすればいいかを提案していただいた。

委員長 県の事業は、地域がどのようなアドバイスを受けたいかによって、その専門の人を派遣してくれる制度で、みなさんも活用されればいい。

委員 補助金もたくさんあるので、上手に活用することも必要。意外と多い。また、行政を無視できないので、市の各担当にいい関係を保ち進めることも重要。

委員 県民交流広場事業も取り組まれているが、私の地元も取り組んでいる。地域協議会ではなく、福祉の事業を中心にしていて。宇仁でも協議会の一つに組み込まれたのか。

委員 いいえ、行政から依頼されて作った協議会的なものを組み入れていない。別のものとして活動した。

協議会の規約の中には、地区に住んでいる住民すべてが加入するという事としている。これは、協議会の誕生経緯に、学校問題があったため、学区内の全員を対象とした。

加西市民でも宇仁地区ってどこか知っていないという現状が浮き彫りとなってきた。愕然とした。これではいけない、宇仁地区を盛り上げていく為には、協議会活動を活発化させないといけないと考えた。

学校問題で地域は、当時の区長さんを中心にまとめ、協議会への活動も活発してきたが、学校が建設されることが決まれば、協議会の目的が達成されたということで、住民の方から「もういいじゃないか」という声を聞くようになった。設立当初も、すべての方が賛成ではなかったが、最近はいちより多く、聞こえてきて、町にお願いしないとできない事業を変更するという事も起こっている。

5万人達成の為に頑張るといって抵抗があると思う。地域の活性化の為に、これから頑張ろうという。町に子供の声がかからないという地域が増えており、このままではいけないという思いをいかに共有するかが大事だと思う。

- 委員 区長も経験しているが、危機感があれば地域は結びつきやすいが、何もない状況では地域の理解を得られない。
- 委員 それは重要。地域から共感を得るテーマを持つのは大事。とりあえず立ち上げようかではダメ。
- 委員 リーダーが大事だと思う。後継者をどのように育てているのか。
- 委員 65歳から70歳ぐらいの方が中心となっていくとだめ。若い世代は、子育てや仕事が忙しく、さらに地域のこととなると無理。リタイア世代に、いままで培ってきたスキルを地元で生かして欲しいと言っている。すごい経歴をお持ちの方も多し。それをどうやって引っ張り出してくるか。
- 委員 実際困っている。区長の成り手もこれからは出てこない可能性もある。
- 委員 そういったスキルを持った人をどうやって引っ張り出してくるのか。
- 委員 一本釣りする。地域でそのスキルを活かしてくれと説得していくしかない。
- 委員 地区の1戸あたり負担金を徴収しているが、これについて反発は無いか。
- 委員 これについては、サービスは有料であるという考え方で理解を求めている。
- 委員 徴収の方法は。協議費と一緒に集めるのか。
- 委員 町にお願いしている。初総会で集めるケースや町が会計から一括支払いしているケースもあり、町に任せている。
- 委員長 ほかにご意見はございませんか。  
無いようでしたら私のほうから感想を話させていただきます。  
宇仁郷の協議会は、完成度が高い組織だなという感想をもった。都市部や郡部でもその地域に応じた組織を作っていくことが大事で、基本的な形としては完成度が高い。  
協議会の基礎として、1番は子育て環境、子供が増えることである。その次が暮らしやすさ。三番目は便利に衣食住が得られる、これが3本柱。その上にいつでも学べる環境、学校のレベルが高い、環境がすばらしいということ。外から宇仁郷が知られ、地域外のひとから評価されることで、自分達はいいところに住んでいるんだということを感じること、さらに地域を大事にする。  
学力の向上ということをテーマにしているのは、すごくいいところに目をつけている。学力の維持というのは、学校の責任と思っている親が多いが、実は地域がしっかりバックアップできているところは学力が高い。少々不便なところでも、学力が高い学校には親は移り住んでくれる。低学力の学校というのは失礼だが、そういった学校は、地域が崩壊していたりする背景があることが多い。  
たとえば、まちづくり協議会が放課後の子供を受け入れて、地域の人が見る。いわゆる寺子屋的なことを行なっている。  
明確なテーマ設定がされており、地域の人でも現状がどうなのかを把握している。なんと

なく、人が少ないというものではなく、数字をきちんと出し、客観的なデータで把握することで考え始める。

各部に各自自治会が横断して関わっている。縦横組織がないと、協議会は動かない。縦割りだけだと空中分解してしまう。区長さんは、実力ではなく人望で選ばれている。人望型組織と呼んでいます。企業は実力型組織と思われていますが、実は大企業になればなるほど、人望で選ばれています。そうしないと組織統括ができない。人と人が繋がっているからこそ、持ちこたえられる。これに年齢は関係が無い。

後継者の問題は、65歳から75歳がまだまだ働き盛り。そのゾーンに目をつけることは正解。団塊世代と呼ばれている人達、この層が地域の中に埋没してしまっていることが問題で、肉体年齢と実年齢の乖離が激しい。肉体は今の60歳は昔の40歳ぐらい。今の80歳ぐらいでやっと昔の60歳。この世代にどんどん活躍していただくことは大正解。朝市は、コミュニティビジネスの芽があります。資料にあります、「やねだん」も特産を作って、資金力を高めていった。

情報部会も必須不可欠。広報紙は必ず発行。地域に活動状況を知らせる必要がある。貸し農園や空き屋情報は、最初は大変な作業が待っているが、軌道に乗れば地域活性化の可能性が高い。

ふるさと創造会議という位置づけは、条例上で定められる団体となれば、現在の世帯加入は取れない。個人加入方式に変えないといけない。これは、その地域に住むものすべての者が加入することとなるから。世帯加入のまま、条例上に定められた組織にスライドする場合は、協賛金や協力金という名前に変えればよい。

県民交流広場事業などの補助金は、いつかは無くなる。それに備えて、ビジネスを考えておく必要があると思います。

事務局 (2)「ふるさと創造会議」のあらましについて

【事務局が、資料2・3・4・5を参考に説明】

委員 今、地域で危機感が無いので、住民の理解が得られるか。なかなか難しいと思っている。長い歴史の自治の中に、新しい組織を作ることには抵抗がある。区長会の中でも、新たな仕事が増えるという認識がある。

委員長 のちほど議論しましょう。

委員 先ほど同じように、区長という組織があって、このふるさと創造会議ができることで、新たに仕事が増えるという認識。地域の理解を得ていく作業が困難だと思う。

委員 宇仁郷でもうまく行っている部分とない部分がある。区長さんにあまり負担をかけるとうまくいかない。長い歴史の自治の中で、行政も国も頼りにしてきた。なぜ、宇仁郷では区長を入れているかという、農地を使う事業の場合は、農会長さんに調整をお願いしないとイケない。種代の負担もある。また、新規居住者区域を設定したが、町ごとに町のルールを作ってもらっている。新たに住むとなるとその町のルールに従っていただく必要もあり、それを決めるのは町であり区長としての仕事。協議会は、区長の仕事と切り離しておく必要がある。区長の選出は、各町の自治を治める役であり、その地域をどうしようかということをも求めても無理。負担にしかない。

区長の中で、まちづくりをする話をして、共感を得るのは3割程度。足並みが揃わない。取り組みやすい事例は、ふれあい事業。またリーダーとなる人は、5年ほどしないとけない。2～3年で代わると、絶対に成功しない。次の者は、前任者は否定する。そうなることと事業が続かない。一人ではできない。仲間が必要。

委員 誰がリーダーになるのかということで悩む。今、協議会が組織されているが、後継者に悩んでいる。代表区長もメンバーになっているが、代表区長が終わればスライドで代表になってくれと言われている。それが順送りされてきて、逆に代表区長に成り手が無いという悪循環に陥ろうとしている。

委員 立ち上げたときは、テーマも明確で地域の協力を得やすかったが、そのテーマが達成されたなら、もういいじゃないかという意見が多くなってきて、運営に支障をきたすおそれがある。

区長というのは、その町のしきたりを踏まえて協議費を集め運営している人で、その人に生きがいづくりを訴えても無理がある。それ以外にその地域でオピニオンリーダーを作って5～6人の仲間を作らなければいけない。

宇仁郷の発表は一つの例であって、このシステムを他の地区に持っていってもうまくいかないと思う。その地域にあった組織を考えないとけない。

委員 地域全体の課題であれば、まとまりやすいと思う。組織のリーダーに誰になるかが課題。

委員 ここにお集まりの方だと思う。

委員長 時間も過ぎておりますので、議論の集結をしていきたいと思います。

大きな疑問をお持ちなのは、区長会は長い歴史のある組織で、全国に残っている組織である。地方自治体は、区長さんをおろそかにしないという団体がほとんどで、そういう考えの自治体は、地域づくりは成功していている。区長さんがないがしろにしている自治体で、成功したところはない。先ほども申しましたが、人望型組織である。これは大事なことである。会社組織のように契約で成り立っているような割り切った関係ではない。ただ、そのまま使ってしまうと区長さんは倒れてしまう。区長さんは多忙を極めているのが実情であり、住民側は区長に頼めばなんでもカバーしてくれるとも思っている。これ以上は無理、限界。障がい者や農業、商業のことなど区長に負担をかけられない。今の現実を認識し、区長を中心とし、民生委員やPTAなどいろんな組織が関わっていくということを始めないとけない。

資料2の中に記載されているように、自治会はいままでどおりと書かれている。自治会の中身まで関わることはしない、協議会は。

区長は、その基礎の自治会を統括する役割なので、協議会はその自治会の内部にまでは関わることはない。いままでどおり。

委員 自治会の中から、協議会に関わる方を入れていただき、地域に協力願うようなことは、そこを通じて自治会に伝えてもらうことをしてもらおう。

区長さんには、立場上入っていただく程度でよい。

委員 区長さんは構成員に入らないとけないのか。

委員長 区長さんは絶対に入らないとダメ。うまくいかない。

委員 区長さんは、絶対に入らないといけない。自治会に、協力をお願いする場合は、協議会が自治会に説明に行く。

委員長 ふるさと創造会議は条例上の名称であって、今の協議会名を使えることでいいですよ  
ね。

事務局 そのとおりです。

委員長 行政は、ふるさと創造会議を11小学校区で設立しようと思っている。しかし、平成何年のいつまでに全地域を一斉に設立しないといけないとは考える必要はない。地域の実情に応じて、個性に応じて作っていくべきだと思っている。作るとすれば最小限に必要なことが資料で説明してくれている。私の住んでいる区域では、13も組織が作られています。自治会はもちろん、青少年健全育成会・防犯協会などある。最近では、防災委員会もできた。これを一同に介し、問題点や困っていることを話し合う場を設ける。役員も一人に4つの団体の長の肩書きがあるようになっている。人材が不足している。組織がありすぎて人材不足。団体を潰す必要はないが、組織を見直して再構築して、お互いを助け合い、人材を無駄にしないようにしていく。

とある市では、区長会の会長のポストが回ってくるというので、この市から引っ越すという方も出てきている。この方は、60代後半の方で、仕事の関係で市外にも家があるが、生まれ育った場所にも貢献したいということで戻られ、自治会長もされた人だが、連自治会長させられるのならそういうことを言われる人も出てくる。これは一つの例ですが。

区長会は協議会のエンジン部分にはならなければいけないが、区長に何もかも押し付ける組織ではいけないということです。区長を助ける組織にならないといけない。安全や防災、福祉、教育の各分野別に、協議会に入ってもらい活動していく。マルの組織。世代別代表、たとえば子育て世代や子供達の声を代弁してくれる組織が入っていない。人口ピラミッドに応じた代表制を担保しないといけない。これは、サンカクの組織。あと地域の代表制、シカクの組織。これは、すでに自治会長の組織で出来上がっている。いままでどおり。

欠けているのは、マルの組織。課題別全方位性と世代別の欠落をどう埋めるか。それにふるさと創造会議を使っていけばいい。ただ、ふるさと創造会議をいつまでに作らないといけないということではない。じっくりと成熟するように取り組んでいけばいい。それには行政もしっかりと支援しなければならぬ。設立の支援・活動開始の支援など、段階ごとに行政もしっかり支援していけないといけないし必要。最後の最後で、独立する際は、株式会社や財団法人ができてることが完成。例で示されている「やねだん」。並大抵のことでは、ここまではできないし、行政もあらゆる支援をしている。

資料5にこれからの支援を挙げていますが、まずは円卓会議を開催して5段階で進める。一堂に会してそれぞれがどんなことに困っているか悩んでいるかを出し合い、助け合う補完関係確認しあい、では作っていかうかという機運になっていく。資料5には、円卓会議の部分が抜けていますので、これを加えていきたいと。さらにそれにもしっかりと行政の支援が大事です。

すでに協議会ができあがっているところもあると思いますが、では、機運すらないところは捨てていいのかということではない。そういったところにも行政は支援をし、協議会活動を活発にがんばっているところにもインセンティブ的な支援をしっかりとする。がんばれないところも応援していかないとけない。他市では、地域担当職員が88人いる。そのあたりもしっかり協力しながら進めていく必要がある。

危機意識が無いという地域は、恵まれている地域だと思っている。そういう地域は、今のこの現状をどうやったら守っていけるかを議論すればいい。歴史的な財産があるや活発な商店街があるという地域は、現状をさらに良くしていこうという視点からだ、意外と火が着きます。危機感の裏返しは満足。満足しているから何もしない。満足感を子や孫達へ引き継ぐ議論は楽しいと思う。それにもっと欲を持つことも重要。

過疎や少子化が目に見えているところは、危機感をすぐに感じ取れる。議論は起こりやすい。

委員 地域住民の共通テーマを探すことがやはり重要です。区長さんに負担をかけてはいけません。実行部隊が頑張ることが重要。65歳から75歳の人が4～5人集まって、何かすべき。また、リーダーも4年はしないとイケない。宇仁郷を参考にしなくてもいい。考え方は間違っただけで無いと思う。

委員 最初のスタートを踏み切れないという悩みはある。

委員 反対の人もいる。まず、家の者が反対している。ずっと外に出ているので、田んぼもほったらかし。考えたのは家族、夫婦で参加してもらおう。部会は別で。これで、奥さんのほうがはまっていくこともある。

委員長 確認を取っていきたいと思うのですが、事例発表を具体的な姿も見えたでしょうし、議論も深まりました。事例を見ましたが、地域の実情に応じた活動、実は何をやってもいいんですよ。しかし、現在の状態のままであれば、区長さんは疲労困憊でこのままでは成り手も居なくなってしまう。なんとかして支えていく。

区長さんは、中心部で心臓部であり必要不可欠。区長会をなくしてしまおうとか、区長とは別組織を作ろうとすれば、絶対にいけないとを確認し、区長に負担をかけないような組織をどうやって作っていくかを考えると、65歳から75歳の人に地域に出てきてもらうようにしないとイケない。地域の伝統を大事にしながら、これから10年先を考えていき、その手法は地域で自由に考えてもらうということを担保する。

円卓会議をはじめ、各段階に助成制度を設けていくことを考えていかないとイケない。市の予算にもよりますが、必ず必要なので、今後検討していきましょう。

空中戦のような話をしていたと思うが、事例をみて少しイメージができたと思います。ポイントとしては、地区代表区長がそのまま「ふるさと創造会議」のリーダーとなるようなことをすれば、絶対にうまくいかない。リーダーも最低でも3年続けて就任してもらえ人を据えなければいけない。

区長を終えられて、数年後の方が協議会の長になることはよくあるが、区長になれば同時にその長が回ってくることはやめたほうがいい。

本日の議論は、この程度で終えて、次回は事務局が考えている支援について話をしましょう。